千葉県ＤＸ推進協議会
令和８年度　総会

資　　料

令和８年５月２５日（月）

千葉県ＤＸ推進協議会

目次

議　事

議案１　令和７年度事業報告の承認について・・・・・・・・１

議案２　令和７年度収支決算の承認について・・・・・・・・１２

議案３　令和８年度事業計画の決定について・・・・・・・・１５

議案４　令和８年度収支予算の決定について・・・・・・・・１７

報　告

報告１　役員の異動及び幹事の委嘱について・・・・・・・・１８

報告２　会員の入退会について・・・・・・・・・・・・・・１９

報告３　部会の設置について・・・・・・・・・・・・・・・２０

①ＤＸリテラシ向上対策部会

②市民共創推進部会

③ＤＸ人材育成検討部会

議案２　総会に付すべき議案について

総会に付すべき下記議案について、承認を求める。

記

総会議案１　令和７年度事業報告の承認について
総会議案２　令和７年度収支決算の承認について
総会議案３　令和８年度事業計画の決定について
総会議案４　令和８年度収支予算の決定について

議案１　令和７年度事業報告の承認について

令和７年度事業報告について、次のとおり承認を求める。

千葉県ＤＸ推進協議会　令和７年度事業報告（案）

１　総会等の開催

（１）通常総会

・日　時　令和 7 年 6 月 27 日
・場　所　千葉県教育会館 302 会議室及びオンライン
・議　案　議案 1 役員の選任の承認について
　　議案 2 令和 6 年度事業報告の承認について
　　議案 3 令和 6 年度収支決算の承認について
　　議案 4 令和 7 年度事業計画の決定について
　　議案 5 令和 7 年度収支予算の決定について
・報　告　報告 1 幹事の委嘱について
　　報告 2 会員の入退会について
　　報告 3 部会活動について

（２）幹事会

①　第 1 回
・日　時　令和 7 年 5 月 14 日
・場　所　書面開催
・議　事　議案 1　会員の入退会について
　　議案 2　総会に付すべき議案について
　　議案 3　部会の設置について

②　第 2 回
・日　時　令和 8 年 1 月 20 日
・場　所　書面開催
・議　題　第 15 回「千葉県内大学による卒業論文発表会」の後援について

２　部会活動

（１）DX リテラシ向上対策部会

・設　置　平成 25 年 5 月 27 日（令和 4 年 4 月改称）

・代表者　特定非営利活動法人　ＩＴＣちば経営応援隊

・参加者　千葉商科大学、市原市、印西市

・目　的　DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することで、県民の皆様の暮らしを豊かにし、子どもからお年寄りまで一人ひとりが活躍できる社会の実現に寄与します。そのためには、DX リテラシの向上が不可欠です。当部会では、住民の皆様との接点が多い自治体職員や学校の教職員の皆様を対象に、リテラシの向上と業務効率化を目指し、DX リテラシ向上策の検討や、実証研究に取り組んでいます。

当部会ではこれまで、キャッシュレス化、行政手続のオンライン化、IT を活用した業務効率化について、総務省の「自治体 DX 推進計画」における重点取組事項を踏まえながら、住民との接点が多い市町村職員の皆様のリテラシ向上および業務効率化を目的として、検討部会・共同研究会を定期的に開催し、事例研究や意見交換、ディスカッションを行ってきました。

しかし、ワークショップ形式で、より深くより具体的に、産学官民が連携した調査・研究を行いたいとの声が上がってきました。

そこで、令和 7 年度は生成 AI などの先進技術をどう活用していくか、「生成 AI を住民サービスに活用する」をテーマに RAG（Retrieval-Augmented Generation：検索拡張生成）機能を備えた「AI チャットボット」の実現方法・運用方法について、事例研究と実証研究を進めました。

・活動報告

R7 年度は、これまでのセミナー形式の共同研究会だけでなく、ワークショップ形式でより深くより具体的に調査・研究に取り組みました。

① 第 1 回共同研究会を「生成 AI・RAG 勉強会」と位置付けて、生成 AI に関する基本的な知識の整理を行い、ワークショップ活動に入りました。

② ワークショップには 10 の自治体の方に継続して参加頂きました。(1 話完結ではなく、6 話のシリーズものとしました)

③ ワークショップは、キックオフ会議でワークショップの進め方を確認し、事例研究 3 回と実証研究 2 回を行いました。事例研究は先行する 3 自治体の方（別府市様、舞鶴市様、真岡市様）に協力頂き、取組内容の紹介と質疑応答で、かなり突っ込んだ意見交換を行いました。実証研究は千葉商科大学鎌田先生の研究環境をお借りし、実際に生成 AI 開発プラットフォーム「Dify（ディフィ）」を操作しながら、RAG を活用した AI チャットボットの回答精度を上げるための要素について試行錯誤をしました。

ア　共同研究会を 2 回実施

①令和 7 年度第 1 回共同研究会

日時：令和 7 年 8 月 19 日（火）14 時～15 時 30 分

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：生成 AI・RAG に関する勉強会

（概要）AI の基礎知識（歴史や種類）

生成 AI の動向（活用事例と注意点）

RAG の機能と仕組み

自治体における RAG 導入・検討事例

RAG 活用における課題

講師：千葉商科大学 人間社会学部 教授 鎌田 光宣様

特定非営利活動法人 ＩＴＣちば経営応援隊　理事 加野 隆司

参加者：28 自治体・5 団体、56 名（うち運営側　6 名）

②令和 7 年度第 2 回共同研究会

日時：令和 8 年 3 月 17 日（火）15 時半～17 時

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：第 1 部

「自分たちで作る・使う・共有する 生成 AI プラットフォーム活用の形」（講師）一般財団法人 GovTech 東京

AI・イノベーション室 神喰（かみじき）一平 様

第 2 部

中間報告 ワークショップ事例研究・実証研究でわかったこと

（報告）事務局＆ワークショップ参加自治体の皆様

参加者：22 自治体・4 団体、47 名（うち運営側　6 名）

【自己評価】

今年度は、ワークショップ活動を中心に構成し、初回の共通勉強会と成果発表会としましたが、ワークショップに参加されなかった方からも「参考になった」との評価を頂き、基本的な知識の整理、実体験による成果の共有ができて良かったと思います。

ただ、共同研究会の開催間隔が空いてしまったので、共同研究会とワークショップの構成を見直します。参加者数は例年並みですが、参加頂ける自治体や団体が固定化していますので、千葉県内の先進自治体の方にも参加頂ける工夫は継続課題です。

イ　ワークショップを 6 回実施

参加自治体：市原市、印西市、勝浦市、酒々井町、白子町、多古町、流山市、
習志野市、野田市、横芝光町

運営側：千葉県デジタル戦略課、千葉商科大学 鎌田教授、
特定非営利活動法人 ＩＴＣちば経営応援隊

①令和 7 年度第 1 回ワークショップ

日時：令和 7 年 9 月 16 日（火）15 時 30 分～17 時

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：キックオフ会議

・参加自治体の生成 AI への取り組み状況
・8/19 勉強会の振り返り、アンケート結果確認
・今後のワークショップの進め方確認

参加者：3 自治体 8 名（運営側含む）

事前課題：取り組み状況整理、勉強会を振り返り質問整理、
ワークショップ取組目標検討

②令和 7 年度第 2 回ワークショップ

日時：令和 7 年 10 月 21 日（火）15 時 30 分～17 時

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：別府市事例研究

・生成 AI への取り組み状況（全体像）のご紹介
・子育て分野の問合せ対応への RAG 活用事例紹介
・質疑応答、意見交換

参加者：13 自治体 24 名（協力自治体、運営側含む）

事前課題：別府市事例記事を読み確認事項整理

③令和 7 年度第 3 回ワークショップ

日時：令和 7 年 11 月 18 日（火）15 時 30 分～17 時

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：舞鶴市事例研究

・庁内問合せ対応に NotebookLM を活用された背景
・庁内問合せ対応への NotebookLM（RAG）活用事例
・今後の生成 AI および RAG の活用計画
・質疑応答、意見交換

参加者：11 自治体 24 名（協力自治体、運営側含む）

事前課題：舞鶴市事例記事を読み確認事項整理

④令和 7 年度第 4 回ワークショップ

日時：令和 7 年 12 月 16 日（火）15 時 30 分～17 時

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：真岡市事例研究

・自治体での Dify 活用状況の紹介

・真岡市様より取り組み紹介（Dify の実証検証について）

・質疑応答、意見交換

参加者：11 自治体 23 名（協力自治体、運営側含む）

事前課題：真岡市事例記事を読み確認事項整理

⑤令和 7 年度第 5 回ワークショップ

日時：令和 8 年 1 月 20 日（火）15 時 30 分～17 時

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：実証研究①

・Dify の基本操作と各自治体用検証環境の作成

・検証事項および検証手順の説明

参加者：7 自治体 12 名（運営側含む）

事前課題：検証用データの準備

⑥令和 7 年度第 6 回ワークショップ

日時：令和 8 年 2 月 17 日（火）15 時 30 分～17 時

場所：ZOOM によるオンライン開催

目次：実証研究②

・Dify での検証作業での疑問点や活用上の考慮点についてのディスカッション

・事務局で検証した内容の共有（ウェブサイトとの同期、サイトへの埋め込み）

・R7 年度のまとめ方

参加者：6 自治体 13 名（運営側含む）

事前課題：検証環境にて各自検証作業、不明点の洗い出し

【自己評価】

毎月開催で運営の負担は大きかったですが、1 回 1 時間半という枠内でディスカッションの時間が充分取れたため、参加者全員が発言でき、疑問に感じたことを気兼ねなく聞けたことは非常に良かったと思います。

事例研究の 3 回は 1 つの事例ごとに行い、事例紹介頂く自治体様にも相互に参加頂き、一緒にディスカッションに入って頂いたので、質問の幅も、それぞれの異なる事情も含めて話ができました。

実証研究の 2 回は、実証研究を始める 1 月までに、千葉商科大学 鎌田

先生に Dify 検証環境を構築頂き、事務局でサンプルアプリケーションの開発と操作手順書および検証手順書を整備しましたので、自治体の皆様がすぐ検証作業に入れたのは良かったです。ただ、年度末が近く、なかなか検証作業が取れなかった、というコメントがあり、実施時期や期間の設定にもう少し工夫が必要と痛感しました。

実証研究の感想や成果を考えると、来年度もワークショップは活用していきたいと思います。

ウ　検討部会開催実績

①令和 7 年度キックオフ部会

日時：令和 7 年 7 月 15 日（火）17 時～18 時

場所：ZOOM によるオンライン会議

参加者：7 名（千葉県 2、千葉商科大学 1、市原市 1、印西市 1 、
部会事務局 2）

議題：◆ R7 年度活動計画確認
◆ 活動日程、手順の確認

→ワークショップ活動を中心とするが、最初に勉強会でレベル合わせを行うことが重要であることを確認しました。実証研究する環境は、ベンダーロックインされないもの（ベンダー営業の対象にされないこと）を確認し、研究会という位置づけでの重要事項が確認できました。

②令和 7 年度第 2 回検討部会

日時：令和 8 年 3 月 19 日 16 時～17 時

場所：ZOOM によるオンライン会議

参加者：7 名（千葉県 1、千葉商科大学 1、市原市 1、印西市 1、
部会事務局 3）

議題：◆ R7 年度活動総括
◆ R8 年度活動計画の確認

→今年度取り入れたワークショップ活動は期待通りの結果で、今後も継続して実施すべきとの意見を頂きました。できれば対面開催も入れたいとの話も頂き、来年度の活動の枠組みが確認できました。

エ　DX リテラシ向上対策部会通信を計 5 回発行した。通算で 20 号となりました。

配信先：DX 推進協議会メンバーおよび県内各市町村

発行実績：

①Vol.16（令和 7 年 7 月 22 日発行）

・令和 7 年度活動計
・セキュリティ事故解説「地方自治体における委託先からの情報漏洩事故対策」
第 1 回：地方自治体からの委託先が情報を漏えいさせるリスク
・今後の予定案内（検討テーマと検討の枠組み案内）

②Vol.17（令和 7 年 8 月 26 日発行）
・R7 年度第 1 回共同研究会 報告
・セキュリティ事故解説「地方自治体における委託先からの情報漏洩事故対策」
第 2 回：対策例① セキュリティ認証による委託先選定
・ワークショップの案内

③Vol.18（令和 7 年 11 月 25 日発行）
・R7 年度ワークショップ活動状況（第 1 回～第 3 回）
・セキュリティ事故解説「地方自治体における委託先からの情報漏洩事故対策」
第 3 回：対策例② 契約書・仕様書による具体的対策の明記
・今後の活動予定（ワークショップ第 4 回～第 6 回）

④Vol.19（令和 8 年 1 月 26 日発行）
・R7 年度ワークショップ活動状況（第 4 回～第 6 回）
・セキュリティ事故解説「地方自治体における委託先からの情報漏洩事故対策」
第 4 回：漏洩事故発生時の対処策を決めておく
・今後の活動予定（第 2 回共同研究会の案内）

⑤Vol.20（令和 8 年 3 月 23 日発行）
・R7 年度第 2 回共同研究会 報告
・セキュリティ事故報告「地方自治体における委託先からの情報漏洩事故対策」まとめ
・R7 年度活動総括
・R8 年度活動方針（案）

【自己評価】

DX リテラシ向上のための情報共有・情報発信として、活動状況報告で成果を、そして今後の活動予定を案内することで活動への参加を促してきました。また、セキュリティ対策に関する記事を継続して掲載し、実際の行動に繋がるよう具体的な内容に努めました。

以前より要望されている他自治体の事例紹介も盛り込んでいきます。

R4 年 8 月よりこの形態で情報発信し、4 年(年 5 回発行)になりますが、DX リテラシ向上対策部会の情報発信として、皆さんに意見を頂きながら継続していきたいと思います。

（２）市民共創推進部会

・設　置　平成 31 年 1 月 21 日（令和 5 年 7 月改称）

・代表者　Civic Tech Zen Chiba

・参加者　Code for Nagareyama、シビックテックもばら、
Team URA-CIMA、Code for INZAI、Code for Kashiwa 他

・目　的　市民共創推進部会は、県全体での DX の取組を活性化することを目的とし多様な主体を巻き込むイベントの開催や、メリットが感じられるデジタル化の事例共有などを通して DX 化を県内全域に取組を広げ、地域課題の解決を促進する。

・活動報告

ア　開催実績と成果

① Code for Japan SUMMIT 2025 参加（11 月 29 日）＠国連大学（渋谷区）
全国の DX、シビックテック団体が集まるイベントにおいて、全国のプレーヤーと交流し、千葉県の取組について共有を行った。
https://luma.com/cfjsummit-2025

② 新春デジガバ読経会 2026（YouTube 配信）
DX・デジタルガバメントに関わる最新のトピックスについて有識者からオンラインでの事例紹介を行った。

https://sites.google.com/view/civictechzenchiba/home/report#h.jbm7ikffdl9r

③Open Data Day 2026 in Chiba（3 月 7 日）＠松戸観光案内所
「～実践から考える AI とシビックテック～」と題して、初心者からエンジニア、行政職員まで、市民活動や地域 DX に関心を持つ多様な方々が集まり、急速に進化する生成 AI を活用したプロトタイプ開発「VibeCoding」を実践。がシビックテックの活動をどのように変容させるのかを体感した。
［自治体・企業・大学生・市民団体の連携、12 名参加］
https://sites.google.com/view/civictechzenchiba/home/report#h.rpvuuw2uuzdx

④地域で市民とともに創るデジタル協働　―シビックテック学に基づく市民参加の実践と自治体の役割―　オンラインセミナー(3 月 24 日)
東京大学において 2024 年度から進めているシビックテック・デザインに関する最新の学術研究や、千葉県内で実際に活動する行政職員・市民リーダーの声を交えながら、これからの地域づくりに不可欠な「シビックテック」の意義と可能性を解説した。
https://sites.google.com/view/civictechzenchiba/home/report#h.culvb8cy7q3v

イ　課題と次年度への取り組み

本年度は、東京大学シビックテック・デザイン学講座（CTDI）と連携し、全国各地において各種生まれている市民活動についてより学問的に捉え、いかに持続的で包摂性の高い活動に仕立てることができるかについて考えを深めた。これによって、なんとなくの単発のイベント開催から、意図と目的をより明確に押さえた活動を意識するようにしている。

特に県内のシビックテック団体（2026 年 3 月時点で 9 団体）がそれぞれに団体としての力を高め、行政と連携し、他の一般の市民団体を支えるような活動にチャレンジする動きが活性化している。また、昨今、大学生等若者によるアイデア創出・アプリ開発・ビジネス開発に関するニーズが高まっており、そういった方々の個別支援も複数件開催してきた。（神田外語大学、千葉工業大学、麗澤大学等）そういった他の市民団体や個人による活動への支援をする方向も見据えながら、次年度以降の市民起点の DX 活動にも取り組む。

3　講演会の開催等

（１）「自治体ＤＸ推進に係る提案会」

日　　時　令和 7 年 6 月 27 日　14 時 35 分～16 時 40 分

場　　所　千葉県教育会館 302 会議室及びオンライン

参加団体　31 団体（行政 25 団体、ベンダー3 社、大学・ＮＰＯ等 4 団体）

内　　容　市町村より 12 件の課題提出があり、それに対してベンダー3 社、ＮＰＯ1 団体から、延べ 6 件の提案があった。

①エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

・電話交換機のクラウド PBX への更新

・職員からの問い合わせ対応における生成 AI の活用

②株式会社広域高速ネット二九六

・広報紙発行に係る印刷及び配布に係るコスト縮減

・児童虐待防止ネットワークにおける定期情報提供

③Civic Tech Zen Chiba

・行政職員のデジタル化の意識向上及び研修会の実施

④富士通 Japan 株式会社

・行政職員のデジタル化の意識向上及び研修会の実施

（２）ちばＤＸセミナー

日　　時　令和 8 年 2 月 6 日　14 時 30 分～16 時 30 分

場　　所　千葉市文化センター5 階

参加人数　80 人

内　　容

「生成 AI とともに生きる社会 ～身近な実践～」

講師：日本マイクロソフト株式会社 パブリックセクター事業本部
安全保障・自治体戦略統括本部 自治体戦略本部　副本部長
河野 泰心　氏

「企業や働く人における生成 AI の活用実態」

講師：株式会社ちばぎん総合研究所 調査部 副部長　観音寺 拓也 氏

「事例から学ぶ―業務成果を最大化する生成 AI 活用の実践」

講師：株式会社ナレッジコミュニケーション 代表取締役　奥沢 明 氏

4　協議会ホームページの運営

会員情報、イベント・セミナー等について適宜更新。

5　参考資料の収集と配付

随時、イベントの案内等を送付。

議案2　令和7年度収支決算の承認について
令和7年度収支決算について、次のとおり承認を求める。

千葉県DX推進協議会
令和7年度収支決算書

（収入の部）

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B−A)	摘要
	円	円	円	
負担金	558,000	558,000	0	県 18,000円 市町村・企業 9,000円×60　計61団体
雑収入	34,300	10,052	△ 24,248	預金利息・情報通信月間援助金
前期繰越金	306,826	306,826	0	
合　計	899,126	874,878	△ 24,248	

（支出の部）

科目	予算額(A)	決算額(B)	差異(A−B)	摘要
	円	円	円	
会議費	220,000	106,771	113,229	ちばDXセミナー、自治体DX推進に係る提案会 会場使用料 ちばDXセミナーの開催に係る費用負担
講演関係費	77,000	28,600	48,400	
事務局費	260,000	225,412	34,588	協議会Webサーバ･システム利用料、https化、振込手数料等
企画活動費	340,000	305,478	34,522	部会助成費（2部会）
予備費	2,126	0	2,126	
合計	899,126	666,261	232,865	

収入総額	874,878
支出総額	666,261
（差引）次期繰越金	**208,617**

監　査　報　告　書

規約第６条第３項の規定により、令和７年度会計について監査をいたしました。

その結果については、適正なものと認めます。

令和８年 4 月 24 日

千葉県 DX 推進協議会
監　事
千葉市　総務局情報経営部業務改革推進課長
小林 崇

監　査　報　告　書

規約第６条第３項の規定により、令和７年度会計について監査をいたしました。

その結果については、適正なものと認めます。

令和８年　4　月　21　日

千葉県 DX 推進協議会
監　事
八街市　企画政策課長

長鳴 公平

議案３　　令和８年度事業計画の決定について

令和８年度事業計画について、次のとおり決定を求める。

令和８年度事業計画

本県の産・学・官・民が協力連携し、ＤＸを推進することにより、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現及び住民福祉の向上に寄与することを目的として、以下の事業を行う。

１　総会等の開催

（１）通常総会
- 役員の選任の承認
- 令和７年度事業報告・決算の承認
- 令和８年度事業計画・予算案の決定

（２）幹事会
- 協議会の業務の運営に関する事項の企画
- 部会の設置　等

２　部会活動

（１）既存部会の活動支援

（２）新規部会の立ち上げ支援

３　講演会等の開催

（１）自治体ＤＸ推進に係る提案会（令和８年６月１日（月））

（２）「ちばＤＸセミナー」の開催（令和８年２月１９日（金））
（(公社）千葉県情報サービス産業協会と共催）

４　企画・活動事業

（１）ＤＸ推進に必要な調査研究事業

（２）その他協議会の目的を達成するための事業

５　協議会ホームページの運営

６　その他

会員の参考となる関係資料の収集と配付（随時）

令和8年度年間活動計画（案）

NO	事　業　名　称	概要等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	総会	役員の選任の承認 令和7年度事業報告・収支決算の承認 令和8年度事業計画・収支予算の決定		通常総会		←			必要に応じて臨時総会の開催					→
2	幹事会	協議会の業務の運営に関する事項の企画・立案 部会の設置、入会の承認　等		幹事会（書面開催）					必要に応じて幹事会の開催　（メール審議も活用）					
3	部会	①DXリテラシ向上対策部会 ②市民共創推進部会 ③人材育成準備部会 各部会への支援（新規設置・活動支援等）	←						各部会への参加・運営支援、新たな部会の設置					→
4	講演会等の開催	自治体DXに係る提案会 ちばDXセミナー		提案会開催									セミナー開催	
5	企画・活動事業	DX推進に必要な調査研究事業	←						情報収集（随時）、必要に応じて視察等の実施					→
6	協議会ホームページの運営	イベント・セミナー等に合わせて適宜更新	←						HP更新（随時）					→
7	その他	国、関係機関からの情報収集及び提供	←						総務省等からのお知らせ、IT関連団体等のイベントの案内（随					→

議案４　令和８年度収支予算の決定について

令和8年度収支予算について、次のとおり決定を求める。

令和8年度収支予算（案）

【収入の部】

科　目	予算額	前年度 予算額	増　減	摘　　要
	円	円	円	
負担金	558,000	558,000	0	県18,000円、 市町村9,000円×38　※富津市追加　NEC退会 民間企業9,000円×22
雑収入	35,000	34,300	700	情報通信月間行事援助金・預金利息
前期繰越金	208,617	306,826	△ 98,209	
合計	801,617	899,126	△ 97,509	

【支出の部】

科　目	予算額	前年度 予算額	増　減	摘　　要
	円	円	円	
会議費	188,000	220,000	△ 32,000	会場等利用費　等
講演関係費	68,000	77,000	△ 9,000	外部講師謝礼、交通経費　等
事務局費	173,000	260,000	△ 87,000	協議会Webサーバ･システム利用料、振込手数料、郵送費　等
企画活動費	330,000	340,000	△ 10,000	部会活動助成費（2部会）
雑費・予備費	42,617	2,126	40,491	
合計	801,617	899,126	△ 97,509	

報告1　役員の異動及び幹事の委嘱について

(1)役員の異動

区分	役員		備考
役職	氏名	団体・職名	
会長	牧野　好二	千葉県総務部デジタル改革推進局長	留任
副会長	今泉　貴史	千葉大学情報戦略機構長	留任
〃	鈴木　孝明	千葉県総務部次長（デジタル改革推進局）	人事異動に伴う交代
〃	井上　政貴	芝山町総務課　課長	留任
〃	宮城　和彦	（公社）千葉県情報サービス産業協会会長	留任
監事	小林　崇	千葉市総務局情報経営部業務改革推進課課長	人事異動に伴う交代
〃	長嶋　公平	八街市企画政策課　課長	人事異動に伴う交代

(2)幹事の委嘱

役職	所属	職	氏名
幹事長	千葉県総務部デジタル改革推進局デジタル戦略課	課長	山本　多美子
幹事	匝瑳市企画課	課長	江波戸　英樹
幹事	茂原市総合企画部	次長	神馬　幹夫
幹事	市原市総務課	課長	原田　秀夫
幹事	我孫子市デジタル戦略課	課長	並内　秀樹
幹事	佐倉市情報システム課	課長	香取　泰幸
幹事	芝山町総務課	課長	井上 政貴
幹事	鋸南町総務企画課	課長	吉田　修一
幹事	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会	事業企画部会部会長（理事）	荒川　典彦
幹事	城西国際大学メディア学部大学院ビジネスデザイン研究科	図書館館長　美術館長	袁　福之
幹事	千葉大学情報戦略機構	准教授	小室　信喜
幹事	富士通Japan株式会社 東日本公共ビジネス統括部(千葉)	マネージャー	岩城　信行
幹事	NTT東日本株式会社 千葉支店 第二ビジネスイノベーション部 第一地域基盤ビジネスグループ	担当課長	谷本　有紀
幹事	協同組合シー・ソフトウェア	代表理事	谷尾　薫

報告２　会員の入退会について

＜入会＞

	団体名
1	富津市
2	千葉大学　情報戦略機構　グランドフェロー　全　へい東
3	千葉工業大学　情報変革科学部　情報工学科　准教授　須田　宇宙

＜退会＞

	団体名
1	千葉工業大学　教授　新井浩志
2	日本電気株式会社　千葉支社　支社長